

山中輪廻

こつてりした緑の山々がかこんでゐる
風が吹くと木の葉が裏返るので白くなつて
すべてがしづまりかへつてしまふ
くねくねした茶色の道がはつきりと見える
小さな自動車が坂の途中をこつちに向いてカーブを切つて現はれた
男が乗つてゐるのだ
俺ではない男がカーブを切つてゐる
車体がすどくかがやいて動いてゐる
けれども風がをさまつてしまふと別の方向に石段が白く残るだけで
あとはみんな消えてしまつた
緑の山々が四方八方から迫つてくる
俺の頭上の空はせまいものになつてしまふ
俺が緑の穴の中にあるわけか
だが堂々と俺は立つてゐるぞ
蟬の声は落ち込む水のやうに一瞬の後にはぶりかへしてくる
ああ 白い葉裏 自動車迅速なり
押しよせるものが終つたのか
また自動車の姿が二倍大きくなつて現はれた
砂ほこりをあげて今度は直線を俺に向つてくる
俺ではない男が運転してゐる自動車が俺の前から横に過ぎて
俺が堂々と立つてゐるつもりのそばで
過ぎたのかそばなのかむづかしい時点でぴつたりととまつた
彼は言つた お乗りになりませんか
俺は乗つて彼に言つた 山の道は運転がむづかしいでせうね
自動車はしばらくたつとアスファルトの道にかかつた
アスファルトが砂利に変わり茶色い土の道となりカーブが多くなつた
ふりかへるとそこはもう相当に高い所であつた
カーブの所にさしかかる前にエスといふ立て札があり
エスエスエスとつづいて書いてあつた
見ると谷底に俺が立つてゐるのが小さく見える
彼はそこで警笛を鳴らした
さつきも鳴らしたのにあなたはやつぱり気がつかなかつたのですよ
俺は蟬がうるさかつたから聞えなかつたのだらうと答へた
答へてから俺はそつと考へた
自動車から俺が立つてゐるのが見える時には
俺の方からも自動車が見えた時だ
道が茶色に見え風が吹いて山々の緑が白に変じてゐた時だ しづかだつた

蟬が聞えてゐるわけはなかつた
馬鹿な奴だ 俺にしても あそこに立つてゐる俺にしても
嘘をついてゐるのか もしくはぼんやりしてゐたのかどちらかだ
いつのまにか俺が運転をしてゐて乗つてゐるのは俺で
直線の道を自動車は砂ほこりをあげて突進し
路傍にみすぼらしく立つてゐるのは彼であつた
満山 緑 と思つてゐたのに おどろいた
すべての山の色は赤くなつてゐた
赤い木の葉を吹きあげてゐる
やがて梢はゆれて一本一本のほそい白い骨は無数の針のやうに光るのであつた
立つてゐる方のみすぼらしい彼である俺の方からは
道ばかりでなくて石段の一段一段がはつきりと
横になつた墓石のやうに角といふ角に光をあびてゐるのが見えてゐる
立つてゐるのは俺で堂々としてゐる
カーブを一台の自動車が走つて直線にさしかかつた
走つてまつすぐに いまに俺の所に来て また とまるのだらうと思つてゐた
白い雲はうかんでゐる
風が吹く
山の形はどこまでもつづいてゐて
山のうしろに山がひだをつくつて
四方八方の山のうしろにはどこまでも山のひだがつづいて 雪が光つてゐた
俺はやはり堂々と立つてゐる 立つてゐる方の彼はまたこれはみすぼらしい
運転してゐる彼は警笛をつづけざまに鳴らしてゐる
運転してゐる俺はカーブをエスエスエスと見事に切りつづけてゐる
見てみると 自動車がはだかの山肌をころんころんと光りながら落ちてゐる
だんだんすべてのものかさういふ風にして
おしまひになつて行くのであらう
こつてりした緑の山々がかこんでゐる
風が吹くと木の葉が裏返るので白くなつて
すべてがしづまりかへつてしまふ
くねくねした茶色の道がはつきりと見える
小さな自動車が坂の途中でこつちに向いてカーブを切つて現はれた
男が乗つてゐるのだ
俺ではない男がカーブを切つてゐる
車体がすどくかがやいて動いてゐる